

科学をキーワードにした町おこし事例

サイエンスフェスティバル

理科教員・企業技術者だけでなくメディア、商工会などを巻き込む

英国

エディンバラ科学祭 イースター期間 7万人
英国科学振興協会（ロンドン） 17万人（2006年6月）

日本

サイエンスアゴラ（お台場） 9,100人（2015年）
青少年のための科学の祭典（1992年～）
全国118か所 362,521人（2011年）

金融・商店会を巻き込んだ事例

東京国際サイエンスフェスティバル（TISF）「太陽系ウォーク」

三鷹駅を太陽に見立てて、13億分の1のスケールの宇宙で三鷹商店街のスタンプリーを2009年から開催

2011年

1.4万枚配布 景品交換者約2100人 総スタンプ数約17万

2014年

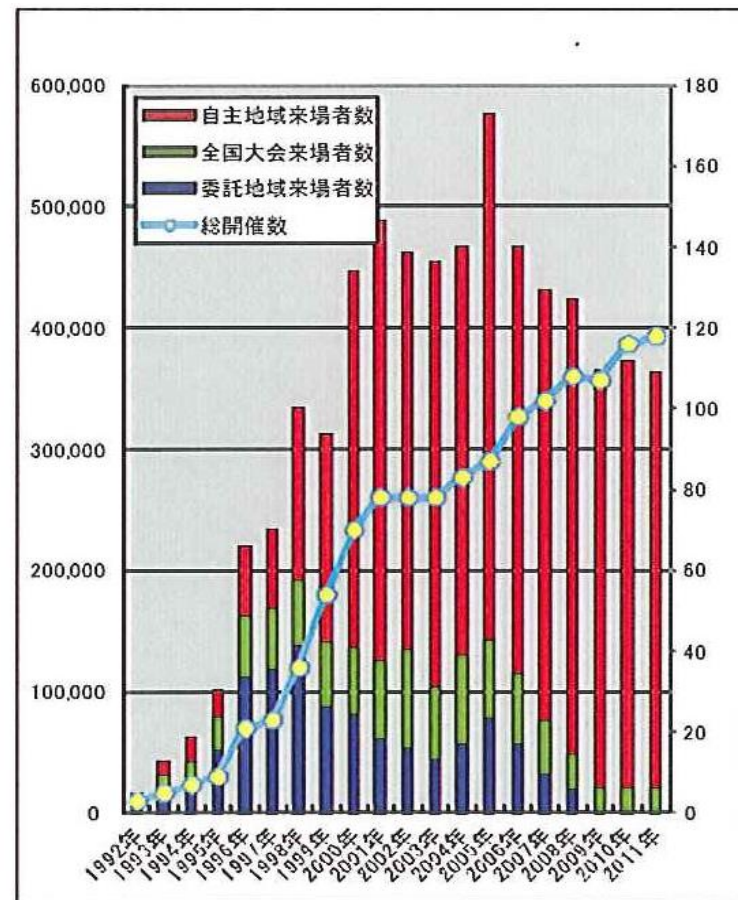
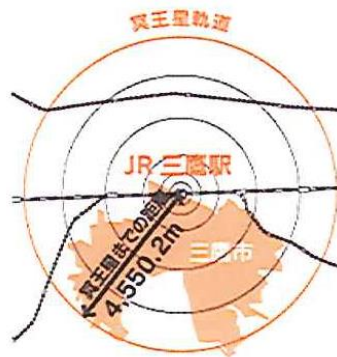
スタンプ設置数217 個、景品交換者約2600人、総スタンプ数約27.5万。
参加者の15%が100か所以上を訪問。

子育て世代が活躍している事例

ママまつり・ママフェスティバル

企業との連携 理系ママも活躍（IT系他）
NPO法人 チルドリン
一般財団法人 Stand for Mother
（日本財団）

太陽系ウォーク地図



20年間の自主地域大会、委託地域大会、全国大会の来場者および総開催数

科学技術館 学芸活動紀要 Vol.5
「20周年を迎えた青少年のための科学の祭典」より